



研修報告

★ 研修内容

- ・褥瘡について基本理解・褥瘡ケアの4つのポイント
(観察・栄養管理・スキンケア・体圧ケア)
- ・医療職との連携
- ・ヘルパーができること・できないこと (身体・生活・医療行為)

【研修レポートより】 感想

- 利用者さんの異変や問題点に早めに気付くことが大切だと思いました。支援の内容により観察が難しい方もおられますが、4つのポイントを意識して日々支援していきたいと思います。
- 熱傷や皮膚炎、ヘルペスなど褥瘡に似た見た目のものが多いので見分けるのは医療職でも簡単ではありません。と書かれていました。知らなければすぐに褥瘡だと決めつけてしまいそうなので、そうとは限らないということも頭にいらしておく必要があると感じました。オムツ交換時、ついオムツを引っ張ってしまったりするので、再度気をつけて支援したいと思う。
- 利用者さんで数名褥瘡になりかけている方もおられます。日々のケアの中で身体をしっかり見ていくことが大切だと思いました。
- 利用者さんの観察は褥瘡ケアを含め、各種疾病の早期治療につながり非常に大切だということを改めて感じました。(栄養管理も)
また、体圧ケアのためのクッションのあてかたなどの研修にも参加したいと思いました。
- 早期発見、医療職への連絡を早急にとることが肝心であると分かった。
治療にむけての取組と再発防止のために観察・栄養管理・スキンケア・体圧ケアの続が欠かせないことになり、細かな気配りが必要だと思いました。
- 褥瘡ケアは4つのポイントに気をつけて普段から利用者さんの状態を見て、報告していきたいと思いました。
- しっかり観察して、褥瘡にならないようにケアし、普段の支援時にも気をつけていきたいと思いました。(特にオムツ交換・・・引っ張らない)
- 普段からの観察や少しの気遣いで防げるものもある。オムツ交換や更衣の時も、変化を見逃さないようにする必要があると思いました。ヘルパー同士の情報交換も必要だと思いました。
- 褥瘡ができてしまうと治るまでに時間もかかるため、「予防と早期発見」がとにかく重要だと改めて認識できました。ヘルパーさん達とさまざまな意見交換ができて良かったです。

○褥瘡のできる悪い習慣にはいろんな要因があり、
早期発見できるように良く観察する習慣をつけなければいけない
と思いました。



規制緩和と介護

介護保険が動き出したのは今から22年前の2000年。
それまでの介護から大きく転換しました。

何が変わったのか外形的にはほとんど分かりません。

だけど実は大きく変わったのです。

2000年以前は社会福祉法人や医療法人など公益性が高い法人しか参入出来なかった介護の世界に営利を求める企業が参入出来ることになったのです。

「どこが違うの?」「変わらないじゃない」とおっしゃる方もいらっしゃいます。

実例を挙げて説明します。わかりやすいのは「雨後の筍」のように作られている有料老人ホームです。有料ホームに入所する方はご自分や家族の財布の中身と相談して、支払える施設を選択します。ただご自宅に暮らすご家族が身体に不自由になればその人にも介護費用が必要になります。

支払いを依存していた子供が失業することだってあります。そうすると今まで支払えた費用が支払えないという事態もありうるのです。

そんなお金の毒な人に営利を求める企業が容赦なく退所を求めることは当然のことです。

2000年以前の介護は憲法が掲げる「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する権利としての社会福祉。いま主力になりつつある介護は規制が緩和され「購入する商品」としての介護です。

みなさんはどちらの介護が安心ですか?

きょうと福祉倶楽部の法人形態も営利企業です。

しかし、人が安心、安全に生きていける社会を求めて作った事業所です。

ですので、人が誰でも人間らしく生きていける社会を求めてこれからも運営していきます。



新型コロナウイルス感染拡大に伴う 利用者みなさんへのお願い

●サービス利用中は可能な限りサービスご利用の方もマスクの着用をお願いします。

●利用者、同居の家族のかたの体調不良(発熱など)はあらかじめきょうと福祉倶楽部までご連絡ください。

有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部

〒617-0824

長岡京市天神4丁目7-12 ハイッポウ 101号

TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808

E-mail info@fukushi-club.com